8年で3500本の動画配信

市民メディア UPLAN を支えよう！

三輪祐児 UPLAN

ゲストスピーカー **西里扶甬子** x **木村英昭**

（ジャーナリスト）　　（ワセダクロニクル）

2019 年 1 月 28 日(月) よる 7 時～9 時 @スペースたんぽぽ

千代田区三崎町 2-6-2 ダイナミックビル4階 ☎03-3238-9035

市民活動などイベント会場でいつも静かに撮影して黙って去っていく、黒い服を着た「自転車ビデオマン」。その動画は＜UPLAN＞の名で配信され続けている。その数 8 年で 3,500 本。

〈3.11〉以降、市民の活動を記録し続けている UPLAN 主宰者・三輪祐児さん。どの組織にも属さず、市民発信を一次情報として恣意的な編集をしないで配信し続ける。変革の礎として将来への記録メディアの役割も果たしたいと情熱だけで走り抜けている。

撮影開始から 2 年後、父が電通で原発推進の市民活動妨害を指揮していたことを知る。それも運命と感じ、命つづく限り撮り続けたいと語る。

忖度、偏向と言われるメディアが伝えない現状、市民メディアの役割が大きくなるはずが、その「記録者」たちは次第に減っている。小さな組織でも、三輪さんの活動を支えることが、将来的に意義があると感じる方にお集まりいただき、色々な形での支援をしていきませんか？当日は UPLAN の映像を振り返りながら、ゲストスピーカーとともに市民メディアの可能性を一緒に探りましょう。

ゲストスピーカー、
西里扶甬子さん：海外メディアの日本取材コーディネーター。元ドイツ第 2 テレビ（ZDF）プロデューサー。「フクシマの嘘」などをプロデュース
木村英昭さん：ジャーナリスト。本初の非営利・寄付型ニュース組織「ワセダクロニクル」を創刊。２０１６年に朝日新聞を退職し、早稲田大学ジャーナリズム研究所で始まった探査ジャーナリズム PJ に参加。

参加費 1000 円

参加申込は不要です。よければ FACEBOOK イベントページで参加ボタンを押してください。

問い合わせ　TeamUPLAN@gmail.com

市民メディア・UPLANを支えよう！

1月２８日（月）19:00~21:00　スペースたんぽぽ

◎ １９：００　はじめの挨拶
◎ １９：０５～「三輪祐児さん　記録映像への思いを語る」　司会：木村英昭　（３０分）
＜　休憩　＞
◎ １９：４５～　「市民メディアの可能性を語り合う」座談会　（４５分）
登壇者：三輪祐児、西里扶甲子、木村英昭

◎ ２０：３０～　参加者全員で、市民メディアの将来を考える。　（１５分）

◇ 三輪祐児：　ユープラン代表。2008年退職して「ユープラン」設立。原発事故後、ビデオカメラを購入し配信スタート。三号機の爆発を見て死を覚悟し生き方激変。電通経由の原発マネーで育ってきた自分を強く意識しながら活動を継続中。

◇ 西里扶甲子：　海外メディアの日本取材コーディネーター/ジャーナリスト。元ドイツ第２テレビ（ZDF）プロデューサー。「フクシマの嘘」2013年版、2014年版を含む一連のフクシマ取材に深く関わる。

◇ 木村英昭：　ジャーナリスト。日本初の非営利・寄付型ニュース組織「ワセダクロニクル」を創刊。２０１６年に朝日新聞を退職し、早稲田大学ジャーナリズム研究所で始まった探査ジャーナリズムPJに参加。

－－－

20190128　ユープラン　三輪祐児

■私が考えてきたこと

0．　pre 映像「Lambethwalk」

1．　幸せな学生時代
　宇宙論と素粒子論がもたらしたインフレーション理論
　$E=mc^2$　　「全ての物質は光の雫・波動」だと知ったこと

2．　戦史研究「戦時下に喪われた日本の商船」と POW 研究会

3．　UPLAN をつくってみたけど
　シンガポール自転車旅行から facebook の運命的な出会い
　なんだか天に導かれるままに

4．　映像制作ことはじめ・・・Lambethwalk からすべては始まった。
　50 年前の福島との出会い
　原発事故と映像との出会い・・・情報の担い手として・・・
　「Lambethwalk」と私の運動論
　「初めてのデモ映像」
　「福島の女たち」
　「どうぶつ慰霊祭」
　「私服警察寸景」
　「水野参事官」

5．　いやがらせ展と電通
　「2013 年のいやがらせ展と海渡弁護士と亡父」

6．　未来とのコラボレーション
　未来の歴史家とのコラボ
　チーム・ユープランの設立と市民メディア
　富山の薬売り一宿一飯

市民が支えるワセダクロニクル

ジャーナリズムの役割　ジャーナリズムの重要な役割は「権力の監視」です。権力とは国家権力だけではなく、個人では太刀打ちできないような大企業も含まれます。その権力が悪さをしないように見張り、隠している悪さを暴き、世の中の人々に伝えるのが、ジャーナリズムの役割です。ワセダクロニクルは、隠された事実を探し出し、権力にとって不都合な事実を暴く「探査ジャーナリズム」に特化したニュース組織です。

日本のジャーナリズムの現状　今、日本のジャーナリズムは危機にあります。瀕死と言ってもいいでしょう。テレビや新聞のメディアは巨大な企業となり、権力を監視するのではなく、自らも権力側に立ってしまっているように見えます

ワセダクロニクルとは　ワセダクロニクルはそんな日本の現状の中、昨年早稲田大学ジャーナリズム研究所のプロジェクトとして、創刊しました。そして、今年２月に特定非営利活動法人（NPO）として、大学を離れ、一つの独立した組織として活動を始めました。

ジャーナリズムの独立性　ワセダクロニクルがNPOを設立したのは、スポンサーからの広告料によるしがらみを避け、独立した組織であることを貫き、既成の、伝統のメディアではできないジャーナリズム活動を展開するためです。そして市民のみなさまには、市民の「知る権利」（権力の監視）を護る活動に参加してもらいたいためです。

探査ジャーナリズムの連携　ジャーナリズムの危機に対応するため、各国で、世界中でワセダクロニクルのような独立した探査ジャーナリズムの組織が誕生しました。そしてその必要性から、それらの非営利探査報道組織は互いに手を取り合い、地球規模のネットワークGIJN（Global Investigative Journalism Network）を作り協力するようになりました。ワセダクロニクルは日本から唯一参加しているニュース組織です。

市民が支える　隣の国、韓国では４万人の市民が毎月約1000円の定額寄付で探査ジャーナリズム・ニュースタパを支えています。日本でも市民が組織を支え育てた経験があります。「広島東洋カープ」です。カープが球団発足後経営難で解散の危機に陥った時、広島市民は「酒樽募金」を始め、支援しました。今でも、カープファンはチームと一心同体です。ワセダクロニクルが目指すモデルは実は、「広島東洋カープ」なのです。ユニフォームも満足に準備できない船出でも、市民が樽を抱えて募金を募りました。選手たちは原爆の荒野から立ち上がった市民と一体となって力をつけ、日本一にまでなりました。

ワセダクロニクルの挑戦　ワセダクロニクルにもお金がありません。政府や大企業に挑むのは大海に小舟で漕ぎ出すようなものかもしれません。取材にはお金がかかります。情報公開もタダではありません。ワセダクロニクルのメンバーは全員無給です。専従者は貯金を取り崩し、他のメンバーは仕事を持ちながら時間をやりくりしてワセダクロニクルの活動に取り組んでいます。それは、ワセダクロニクルが、日本のジャーナリズムの砦として、「権力の監視」をし、隠されている事実を皆さんに伝え、権力の犠牲になる人のために働く役割を担っている組織だと自負しているからです。そして、その高い志・強い探査ジャーナリズムを支えるのは、社会を変えたいと強く願う市民です。社会の一人一人がジャーナリストとともにジャーナリズムを支えるのです。

メンバー構成と受賞歴　ワセダクロニクルは、朝日新聞特別報道部出身の編集長・渡辺周をはじめ、メンバーの多くがメディア会社の出身者です。「銀座のママ」という変わり種もいます。学生も一緒に勉強中です。そんな私達が、発足後わずかで、命に関わる医薬品のステマ記事の裏でカネが動いていたことを暴いた「特集：買われた記事」が外国特派員協会報道の自由推進賞を、また、一連の報道に先鞭をつけ公開後、国会議員が犠牲者への補償のため動きはじめた「特集：強制不妊」で反貧困ネットワークの貧困ジャーナリズム大賞を、という２つの名誉ある賞を授与されました。

みなさんのご支援がニュースを支えます　ワセダクロニクルへの寄附は、クレジットカード・口座引き落とし・銀行振込での３種類があります。詳しくは、下記のホームページから、またはメールでお問い合わせください。

ホームページ：http://www.wasedachronicle.org/
メール：contact@wijp.org